

地元の製鉄文化継承

ホッパの会・中高生協力し炉造り

「関市大東町のボランティア団体「ホッパの会」(勝部昌平会長)は1日、ただら製鉄の炉造りを同町大原内野地区の砂鉄川ただら製鉄学習館で行った。会員のほか地元の中高生が協力し、高さ約1.5mの炉を二つ仕上げた。

同会は地域に伝わるただら製鉄文化の継承を目的に、地元の大原小学校と協力して砂鉄採取や製鉄体験

などに取り組んでいる。例年は8月上旬に農業体験などのため同町を訪れる日本大(神奈川県横浜市内)の学生の協力を得て炉を製作しているが、新型コロナウイルスの影響で昨年からは地元の中学生らが協力。同日は会員8人のほか、大原中と大東中、大東高校の生徒8人が参加した。

生徒たちは会員の指導を受けながら、材料となる土

に水と乾燥した後、割れないよう稲わらを交ぜ、金属製の型の中に入れて、木づちなどで押し固める作業を繰り返した。

大原中2年の金野天さん(13)は「土を運ぶのが重くて大変だった。毎年新しい炉を造るために、こんな大変な作業をしていたんだと感じ、来年も協力しようと思った」と話した。

勝部会長は「生徒が力仕

事もよくやつてくれ、今年もただら製鉄に向けた準備をすることができた」と感謝した。

炉は1週間後に金属の型

を取り外し、約1カ月かけて自然乾燥させるなどして完成。9月上旬に大原小児童が体験するただら製鉄で使用する。

土を押し固める様子。ただら製鉄の炉を造る参加者

